

上白根北中学校におけるESDの方向性

1 はじめに

昭和の時代から続く、地域に愛され支えられながら多くの卒業生を輩出してきた2つの中学校が3年前に統合し、上白根北中学校として新たな出発を遂げました。少子高齢化や地域社会の持続可能性という、この国が抱える大きな課題をある意味肌で感じられる出来事に、学校統合に関わった当時の教職員、生徒、保護者および地域の方々の困惑やご苦労が偲ばれます。同時にこのことは、VUCAと言われる不確実で曖昧な先が見通せない社会を生きることに対して、この地に生きる私たちが当事者意識をもって課題解決にあたらねばならないという意識を呼び起こすことにもつながっているのではないのでしょうか。

そのような中で本校が掲げる学校教育目標は、「認め合い 支え合い 学び合い 高め合う」です。この達成を最上位目標として、この先本校がどのような発展を遂げていくべきなのか、どんな子ども像をゴールに据えるのか、それはどんな方法で達成を目指すのか、それらを考えるとき、学校のカリキュラム・マネジメントに加える要素としてESD（持続可能な開発のための教育）の考え方が見えてきます。学校教育に関わる全ての人たちをステークホルダーとして現場に招き入れ、教育の当事者となっていただくことを、ホールスクールまたはホールコミュニティ・アプローチと呼びます。これを通して持続可能な社会の担い手を育成していくことが重要です。

2 ESDとは

ESDとは、'Education for Sustainable Development'の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。現行学習指導要領の実践を継続する中で、今年から始まる第5期横浜市教育振興基本計画においても引き続き、持続可能な社会の担い手の育成が柱の一つに据えられています。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という「社会に開かれた教育課程」を実現するうえで、私はESDの推進が大変重要な戦略だと捉えています。世の中の企業や研究機関と同様に、学校教育のゴールが「社会実装」であることを考えると、学校が果たすべき社会的責任はまさに「社会に開かれた教育課程」を推進し、未来社会の創造に寄与することです。

ESD は、ユネスコ (UNESCO: 国連教育科学文化機関) が主導し、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に不可欠な教育として位置づけられています。経済や環境、人権や福祉、社会の様々な課題に主体的に取り組み、積極的に課題解決を図ろうとする姿勢を育むことが、持続可能な社会の実現に欠かせません。



ICT 活用が進み、Society 5.0 と呼ばれる時代がもうそこまで到来している今、日本の教育も大転換期を迎えています。教育に携わる私たちにとって重要なのは、変化する社会の動向を敏感に察知し、明確なゴールを見据えて常に自身をアップデートさせていくことです。「不易流行」を大切に、これまでに本校が築いてきた伝統・文化を ESD の視点で捉えなおし、未来を生きるための新しい価値を見出して積極的に自分自身や社会に変化をもたらすことができる人材 (グローバル人材) を育成することに力を注いでいきたいと思います。

3 ホールスクール・アプローチ



学校全体として ESD に取り組むことを、ユネスコは「ホールスクール・アプローチ:Whole School Approach」と呼んでいます。これは、学校教育において ESD の学びの環境を整え、実践の質の向上と取組の持続発展を図るために、とても重要な視点です。

次の一節は、文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会の「ESD 推進の手引き」からの引用です。

ESD は、その趣旨や目標から言っても、成果を上げるには意図的・計画的で長いスパンの体系的な教育実践が必要です。そのために、前述のとおり①:学校全体で「持続可能な社会を創る教育」という ESD の理念を共有すること、また、②:教職員一人一人が、ESD の実践を通して「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」ことや、「ESD が教育の質を改善する」という ESD の教育的価値や意義を理解し実感することが大切です。そして、③:学校の教職員が、役割に応じてそれぞれの個性や能力を発揮し、「一つのチーム」として取り組んでこそ、その実現が可能となります。

※ 「①:②:③:」は筆者加筆

- ① : 学校全体で ESD の理念を共有すること
- ② : 一人一人が ESD の実践を通してその価値や意義を実感すること
- ③ : 役割に応じて個性や能力を発揮しチームとして取り組むこと

これらを念頭に置き、上白根北中学校の学校教育目標「認め合い 支え合い 学び合い 高め合う」を最上位目標として、ホールスクール・アプローチで取り組んでいきます。

4 ホールコミュニティー・アプローチ



先述のとおり、現行の学習指導要領には「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められている資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示されています。そのために、大きな役割を果たすことになるのが学校運営協議会です。学校運営協議会は、様々な立場からお願いしている委員の皆様、本校の教育目標を承認いただくとともに、当事者として学校運営に携わっていただくことが、その目的です。本校の ESD を推進していくためには、ホールスクール・アプローチが大切であると同時に、多様な関係者（ステークホルダー）と目標を共有して、協働を通して達成を目指すホールコミュニティー・アプローチが必要になります。今後の学校運営協議会での実践を通して、本校の ESD が進化・発展していくことを期待します。

5 エージェンシーの獲得と発揮を目指して

ESD を推進していくための活動主体として、生徒、教職員がいますが、ホールスクールおよびホールコミュニティーのアプローチをすることから、保護者、地域の多様な人々もそこに含まれると考えます。これらの生徒、教職員、保護者、地域の多様な人々をステークホルダーとして、学校の最上位目標（学校教育目標）を達成するためにどんなことができるのか、何を目標として、何をすべきか、を ESD の視点で整理し、明確化したものが、ESD ロジックモデルです。初めから完成されたロジックモデルを求めるのではなく、「とりあえずやってみる」という姿勢を大切に、できることから実践していきながら検証・改善を繰り返して、より良い ESD ロジックモデルとして取組が統合され、その先は持続可能な取組として磨かれ続けていくことを目指したいと考えます。

そして、それを通して育成する子どもの資質・能力として、「エージェンシー」の獲得と発揮を掲げます。OECD が Learning Compass 2030 で示すエージェンシーとは、

the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to effect change

「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されます。予測困難な未来の創造に向けて、社会の変化に柔軟に対応し、質の高い意思決定力をもってエージェンシーを発揮する人材を積極的に育成していきます。

「認め合い 支え合い 学び合い 高め合う」

横浜市立上白根北中学校